

製品名: HURP ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab12287**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,ELISA
反応性	ヒト、ラット、マウス
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12 ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,ELISA 1:20000-1:40000
分子量	95kDa

抗原情報

遺伝子名	DLGAP5
別名	DLGAP5; DLG7; KIAA0008; Disks large-associated protein 5; DAP-5; Discs large homolog 7; Disks large-associated protein DLG7; Hepatoma up-regulated protein; HURP
遺伝子 ID	9787.0
SwissProt ID	Q15398
免疫原	抗血清はヒト DLGAP5 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 791-840

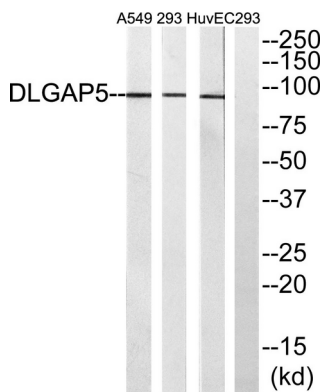
背景

発生段階:HeLa 細胞の同調培養において、G2/M 期で発現レベルの上昇が検出されました。機能:がん細胞の発癌に関与する可能性の

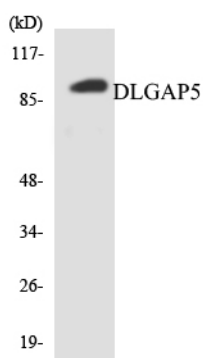
ある細胞周期調節因子です。ユビキチン-プロテアソーム経路によって制御される有糸分裂リンタンパク質です。CDH1 を介した上皮細胞への接着とシグナル伝達に関与する可能性のある、接着結合の完全性と分化の重要な調節因子です。、PTM:DNA 損傷時にリン酸化されますが、おそらく ATM または ATR によるものです。リン酸化レベルの低下は、腸管上皮細胞の分化に関連しています。、PTM: ユビキチン化され、分解されます。、類似性:SAPAP ファミリーに属します。、細胞内局在:有糸分裂細胞の紡錘極に局在します。腸管上皮細胞の細胞間接触部位で CDH1 と共局在します。、サブユニット:CDC2 と相互作用します。FBXO7 の C 末端プロリンリッチ領域と相互作用する。FBXO7 は CDC2/サイクリン B リン酸化依存的に SCF (SKP1-CUL1-F ボックス) タンパク質複合体にリクルートする。CDH1 と相互作用する。、組織特異性: 胎児肝臓で豊富に発現する。骨髄、精巣、結腸、胎盤では低レベルで発現する。、発生段階: HeLa 細胞の同調培養において、G2/M 期で高レベルの発現が検出される。、機能: がん細胞の発癌に関与する可能性のある細胞周期調節因子。ユビキチン-プロテアソーム経路によって制御される有糸分裂リン酸化タンパク質。CDH1 を介した上皮細胞接着およびシグナル伝達に関与する可能性のある、接着結合の完全性と分化を制御する重要な因子。、PTM: DNA 損傷時に、おそらく ATM または ATR によってリン酸化される。リン酸化レベルの低下は、腸管上皮細胞の分化と関連している。、PTM: ユビキチン化され、分解される。、類似性: SAPAP ファミリーに属する。、細胞内局在: 有糸分裂細胞の紡錘体極に局在する。腸管上皮細胞の細胞間接触部位で CDH1 と共局在する。、サブユニット: CDC2 と相互作用する。FBXO7 の C 末端プロリンリッチ領域と相互作用する。FBXO7 によって CDC2/サイクリン B リン酸化依存的に SCF (SKP1-CUL1-F-box) タンパク質複合体にリクルートされる。CDH1 と相互作用する。、組織特異性: 胎児肝臓で豊富に発現する。骨髄、精巣、結腸、胎盤でも低レベルで発現する。、

研究分野

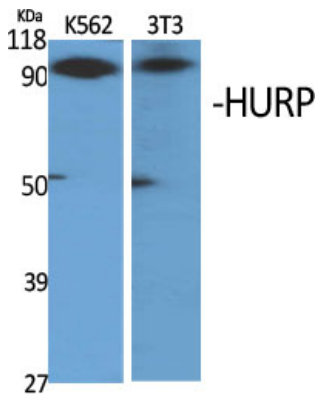
画像データ



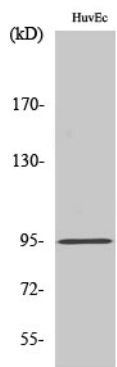
DLGAP5 抗体を用いた A549 細胞、293 細胞、および HUVEC 細胞のライセートのウェスタンブロット解析。右レーンには合成ペプチドでブロッキングされている。



DLGAP5 抗体を使用した HT-29 細胞の溶解物のウェスタンブロット分析。



HURP ポリクローナル抗体を用いた様々な細胞のウェスタンブロット分析



HURP ポリクローナル抗体を用いた A549 細胞のウェスタンブロット解析